

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな)	むらた やすこ 村田 泰子	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	なほ やすこ 中野 康人	関西学院大学
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-120707-0	16名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：今年度はゼミの3回生16名が、3つの班に分かれて調査実習を行いました。ゼミの共通テーマは、「現代社会における家族とジェンダーの変容」です。第1班は「スポーツとジェンダー」をテーマに、4名の学生が調査テーマの決定から報告書の執筆まで、調査全般にわたり主体的な役割を担いました。班のメンバーには体育会系の部活動やサークルに所属する学生が複数おり、みずからの経験や持てるネットワークをフルに活かして調査を行うことができました。今回、調査対象として、「関学スポーツ」という身近で具体的な対象を取り上げ、複数の調査法を組み合わせることで、よい結果が得られたと思います。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：調査テーマは、「スポーツとジェンダー」です。近年、社会の諸領域で女性の活躍が広がっているなか、男性性の最後の牙城と言われるスポーツの領域においてはどのような変化があったのかという問いを立て、調査を行いました。

2. 調査の内容/概要：調査内容は、身近なメディアである「関学スポーツ (学内新聞)」を取り上げ、過去51年間分の記事における女性の取り上げられ方の変遷と、社会 (制度・法律) の変容、および記事の書き手の性別・意識の変容について調査を行いました。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：調査対象は、(1) 大学の附属図書館に所蔵されている過去51年間分 (創刊の1961年から現在まで) の「関学スポーツ」の記事、ならびに (2) 「関学スポーツ」編集部の編集部員です。

4. 主な調査項目：主な調査項目は、年代ごとの「関学スポーツ」における女性の描かれ方の変容 (選手として/選手の応援者として、記事に登場する頻度、取り上げられ方など) と、書き手の性別・意識の変容、などです。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：データ収集の方法は、(1) 図書館での資料収集と、(2) 聞き取り調査を組み合わせるで行いました。聞き取り調査は予め用意した質問項目に基づき、行いました。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査の実施時期は、(1) の資料収集は2012年9月から10月にかけて、(2) の聞き取り調査は2012年12月21日 (金) に実施しました。(2) の調査地は関学スポーツ編集部、調査員の数は3名です。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：収集したデータについて、(1) では「関学スポーツ」51年分の記事を通時的に調べ、質・量ともに一定の信頼のおけるデータが収集できたといえます。(2) の聞き取り調査では、現在の書き手の性別や意識を明らかにすることができました。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：データ分析の方法は、まず、(1) で収集したデータを社会のなかのより広い制度や法律の変化に関連付けて整理したうえで、(2) の聞き取り調査によって得られた知見と関連付け、考察を深めました。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：調査をつうじて、創刊から1970年代までの「関学スポーツ」には、「関学びいき」と呼ばれるコーナーがあり、男性スポーツ選手を応援する女性 (その多くは美貌の女性) が取り上げられていたこと、その後、社会全体で男女共同参画の機運が高まるなかで、徐々に選手としての女性が取り上げられるようになったことが明らかになりました。1994年には一面記事に、初めて女性選手が取り上げられました。

10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は、班のメンバー3名 (1名は単位取得できなかったため) が分担して執筆しました。2013年7月ごろまでに、報告書を刊行する予定です。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	むらた やすこ 村田 泰子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	なかの やすこ 中野 泰子	関西学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-120707-0	16名	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

第2班は「性的マイノリティと映画祭というメディア」をテーマに、6名の学生が、調査の立案から報告書の執筆まで、調査全般にわたり主体的な役割を果たしました。調査をすすめていく過程で、すでにさまざまな性的マイノリティが「みずからの問題」について語り、行動している現状を目の当たりにし、わたしたちはむしろ、性的マジョリティである異性愛者（「われわれ」）についてこそ調査すべきではないかという意見も出ました。社会調査における当事者性の問題、ならびに他者を調査することの難しさについて考える、よい機会になったと思います。

II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

調査テーマは、「性的マイノリティと映画祭というメディア」です。先に文献等で性的マイノリティの歴史や不可視性について調べたうえで、現代日本社会において、性的マイノリティが映画祭を行うことの意義について調査しました。

2. 調査の内容/概要：

調査は、(1) 関西クィア映画祭の運営委員2名の聞き取り調査、(2) 関西クィア映画祭の現地調査、(3) 関西クィア映画祭運営委員長のひびのまこと氏の聞き取り調査から成ります。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：(1)の映画祭運営委員の2名は、性的マイノリティの当事者で、映画祭の運営にも携わっていることから調査を依頼しました。(3)のひびの氏は、映画祭でひびの氏制作のドキュメンタリー映画が上映されたこと、また著書やHPをつうじてさまざまな問題提起を行っておられることから、調査を依頼しました。

4. 主な調査項目：主な調査項目は、日本社会における性的マイノリティの認知・受容に関するものと、映画祭というメディアに関するものに分かれます。前者について、文献調査から、見かけ上の性的な寛容さが、性にまつわる問題の人権化を阻み、不可視化を引き起こしているという仮説を立て、調査に臨みました。後者の映画祭というメディアについては、不可視化されている現状との関連で、映画祭というメディアの有効性を調査しました。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：データ収集の方法は、(1)の映画祭運営委員の調査は、ゼミにて映画祭の広報活動と、性的マイノリティの現状についてお話しいただいたあと、質疑応答を行いました。(2)については映画祭会場を訪れてのフィールドワーク、(3)については半構造化面接の手法を用いた聞き取り調査を行いました。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：(1)の調査は2012年7月13日(金)、関西学院大学上ヶ原キャンパスにて、ゼミの3・4年生約20名が参加して行いました。(2)は同年10月13日(土)、京都大学西部講堂にて班の4名と4年生1名、教員(村田)の計6名で実施した。(3)は同年12月7日(金)、班の5名で京都市にて行いました。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収数及び回収率を必ず記入)：データ収集に当たっては、現地調査に加え、セクシュアリティ運動の分野で著名な活動家であるひびのまこと氏と現役若手の運営委員の聞き取り調査を合わせて行ったことから、量的・質的に満足のいくものとなったと思います。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

文献調査にもとづき、日本社会における性的マイノリティの不可視性と映画祭というメディアの有効性について仮説を立てたうえで、複数の調査を行い、仮説の正しさを検証しました。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：宗教的背景から、苛烈な差別があったゆえに性の人権化がすすんだ欧米の国々では、市長や企業も参加して性的マイノリティによる政治運動が広範に行われているのに対し、日本ではまだまだ不可視化されている現状があること、そうしたなか、映画祭というメディアは、パレードほどに身元を明かすことなく、多くの人が継続的に関わることのできるメディアとして重要であるという結論が得られました。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書は、各人が分担して執筆しました。2013年7月ごろまでに、報告書を刊行する予定です。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		
(ふりがな)	むらた やすこ 村田 泰子	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	なかの 泰人	関西学院大学
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-120707-0	16名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：第3班は、「現代社会における認可外保育施設の新しい役割」をテーマに、6名の学生が調査テーマの決定から報告書の執筆まで、調査全般にわたり主体的役割を果たしました。都市部を中心に、核家族をベースにした子育てシステムが行き詰まりをみせるなか、従来、いわゆる「待機児童」の受け皿としての消極的機能しか見出されてこなかった認可外保育施設に新しい役割が期待されていると考え、地元西宮市で調査を行いました。調査を行うまえは、認可外施設に対しマイナスのイメージを持っていた学生たちでしたが、調査を行うなかで、これらの施設が社会のなかで一定の役割を担っている現状と、今後、活用していくうえでの課題について考えることができました。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ/領域：調査テーマは、「現代社会における認可外保育施設の新しい役割」です。一口に認可外施設といってもさまざまなタイプが出てきているなか、今回はとくに、幼児教育（英語での保育）に力を入れている施設を取り上げ、その実践を、現代家族の保育ニーズの多様化に関連づけて考察しました。

2. 調査の内容/概要：

文献やインターネットをつうじて、保育サービスの多様化について調べた上で、市内にある認可外保育施設「キンダー・キッズ・インターナショナル西宮校」の訪問調査、ならびに運営者の聞き取り調査を行いました。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：調査対象は、認可外保育施設「キンダー・キッズ・インターナショナル西宮校」のスクールマネージャー、押田弘美氏です。対象者選定の理由は、同校が、認可外施設であることの利点を活かした特色のある保育を行っており、本調査の対象として適切であると判断したためです。

4. 主な調査項目：

調査項目は、施設に関するものと現代家族の保育ニーズの多様化に関するものに分かれます。まず、施設について、設立の経緯や保育理念、保育内容、保育料、保育者、施設や設備についてなど調べました。つづいて現代家族の保育ニーズの多様化について、働く母親の増加や待機児童問題、少子化、学歴社会などとの関連について、押田氏の考え

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

データ収集の方法は、施設の訪問調査（施設見学と保育の様子の見学）と、半構造化面接の手法を用いた聞き取り調査です。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査の実施時期は2012年11月9日（金）、調査地は「キンダー・キッズ・インターナショナル西宮校」（所在地：兵庫県西宮市南昭和町2-30）です。調査員の数は6名です。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：

今回、時間的な制約により、データ収集は単一の施設で行い、聞き取り調査も運営する側の調査にとどまりました。今後、卒業研究としてこのテーマを継続して探求する学生には、利用する側の調査もあわせて行ってほしいと思います。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

データ分析の方法について、予め文献やインターネットでの調査をもとに、現代家族の保育ニーズの多様化と認可外保育施設の新しい役割について仮説を立てて現地調査に臨み、調査後に仮説の再検討を行うという方法を取りまし

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：調査から、「キンダー・キッズ・インターナショナル西宮校」では、限られた資源を有効に活用して、幼児教育の分野で先駆的なサービスを提供していることがわかりました。また、利用者の側も、二人目の子どもも同施設に通わせる、たとえ認可施設に空きが出ても転園をしないなど、そのサービスを高く評価していることがわかりました。今後の課題として、安全面の問題が挙げられています。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書は各人が、相互に独立した報告書を執筆しました。2013年7月ごろまでに、報告書を刊行する予定です。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。